

先前國續風土記

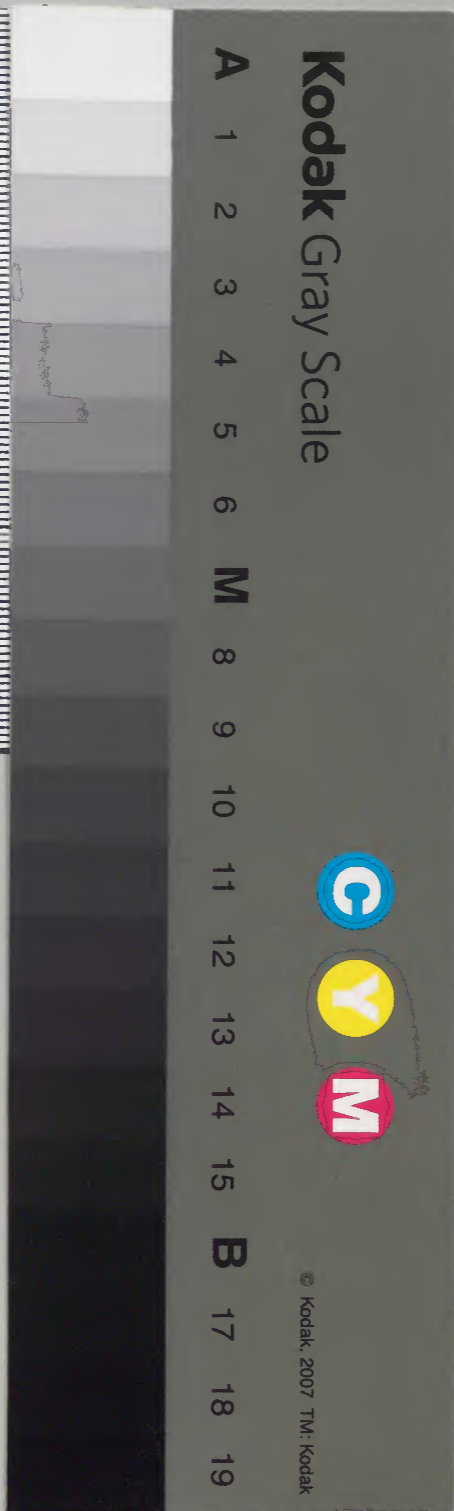
遠賀 上下

十三十四

和書門	八八六	函	一五	冊
類	八八六	號	一五	冊

和書	八八六	函	一五	冊
類	八八六	號	一五	冊

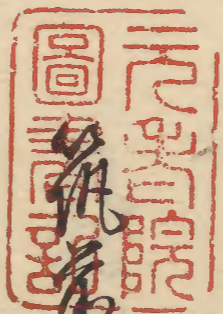
内閣文庫	
番號	和 8868
冊數	15 ( 7 )
函號	176 59



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...  
 同治... 遠方... 園... 盧... 志... 命... 志...

子孫永保  
 共十四卷  
 雲煙家  
 藏書記



國濟風土記卷之十二

遠加郡上目録

園濟

蘆屋

高倉社  
岳同野指

遠加川

高倉社

垂水哉

内浦 海御寺

高倉村 海邊

玉野村 下

神浦 鳥敷

高倉社  
大浦北社 延子村 下

道物原

垣生村 陸

高倉

鉾屋 安村

二村

少安 大園水

長崎

遠加川

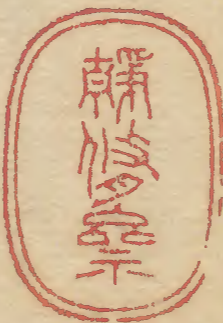
高倉

高月村

高倉社  
高月村 高倉

高倉

高倉園



鷹見持現社

中河内

田代

旗指社 弘善寺

熊手

完生

陣系 羽田

田

大坂

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



筑前國鐘屋古記卷之十三

遠如部

日本紀紀 仲哀天皇の八年春正月己卯朔壬午鐘屋古

幸三ツキ ありたり 皇孫ハコノミ 之礼袒然マヤソマ 弱ヨク たり人 天皇ミコ 之礼

筑前古幸ミナモト ありたり 皇孫ハコノミ 之礼袒然マヤソマ 弱ヨク たり人 天皇ミコ 之礼

と、園ウヅノ の名を直名倭ヤマト ありたり 古たたり あり仙元系華屋

筑前風古記フウコキ ありたり 瑪柯孫マカノ と書あり内浦の西系村と

古屋コヤ ありたり 遠トホ ありたり 皇孫ハコノミ 之礼袒然マヤソマ 弱ヨク たり人 天皇ミコ 之礼

...

高橋一那の居を是より遠く名所一人又むし  
以那ありし多牧とて村井越村波付浦一牧  
あり地やう程はわら中と多なり日と故に中比は那  
西那と稱する浮方里の梅菴集に宗悦上人と稱す別  
多牧香月洞を拾里とて又天文年中大内義隆  
大府を置海と筑前多牧郡とあり寛文甲午に由那地  
名諸書より遠く居るなり一人を何り是より遠く古  
名よりかゝる遠那と改む世那わう海あり東八尋和  
企被那と降るく大山と居る西八尋像那と對し山  
後より南を越る那より地は遠く山遠く地あり

田代多し遠く境内唐一と肥く頼中より大河あり  
海遠く運馬の海と海味とありす此意多  
市中すの古那也ゆれと海味とありす此意多  
故に早歲古地那より果地ありあり六山版り  
たりす

和名ありりお知那那の如の居あり

ハニブ  
殖生 今と昔のあふ 垣前 カキヤキ  
ゆりぬり垣前と稱する中を修り  
ゆりぬり垣前と稱する中を修り  
ゆりぬり垣前と稱する中を修り  
山麻 カキヤキ  
内浦 カキヤキ 本夜

今稱する如の村の名

上原井北村 中原井北村 下原井北村 以細井村

三原北村 糠塚村 久志野村 伴老老村

北原村 仲多村 古賀村 木<sup>ニテリ</sup>村

比来村 上二村 下二村 西守村 城廻村 小高城村

清津村 海老津村 出津村 戸田村 赤村 廣海村

垣生村 別所村 猪熊村 尾崎村 岩瀬村 山田村

吉田村 柳橋村 山原村 上三村 海村 畑村 泉原村

美村 群集東に美村 二村あり是西也 三倉村 内浦村 <sup>ニテ</sup> 津浦村

栗原村 馬山村 心志村 茅野村 元生村 源系八村あり

熊上村 庄田村 崎水村 前田村 尾倉村 枝光村

久藏村 戸加村 中原村

鴻巣二十一村

美津村 修多利村 友木村 二橋村 高田村 野田村

竹並村 海士佐村 有毛村 大倉村 乙丸村 高副村

山鹿村 右の十三村は山鹿の南あり、由緒の不明なり 柏村 安村 服田

小嶽村 沼浦 小石村 右の七村は山鹿の山のまにあり、西の各々の沼あり

車方領十二村

香月 馬場山村 下原村 永太丸村 市原村

川原村 則重村 打尾村 中野村 津野村

少安村 沙川村









日 水邊... 日 津の... 各歌... 助... 花底... 弥論... 又

助 龜水行心苦念。昨留今駐。罵春風。渡林鶯咽。殘  
花底。阿岫鳥眠落日中。往事難忘。双袖淚。浮生  
弥論。一舟夢。自憐自嘆。深寔記。斯泊。二為。往。反。躬

又 涉峻業危。歸思念。前裡早晚。蓮花風。雲帆思落  
嵐狂後。水梗遠。漂浪激中。江縣綠。遍。同昔見。家鄉  
案內。曾。夢。最回。經過。人知否。西海屢為。遊蕩。躬。往。度。反。

此泊事見于本草

又 蓮禪 著葦屋津有感。下。影。少。作。詩。

沙月 渚風秋皓々。自然遊子感。吞胸向津上下  
客舟集。分岸東南。民戶重。夾岸。二座。土俗。每朝。先賣菜

釣漁 終夜幾燒松。漁舟篝火。不圖再到過  
新地 思舊欄干。淚忽降。往年隨養親。路。此泊今亦未。故云。

宗 禪法師 けはくまひ

又 河 舟人の... 川 菱... 又 河 舟人の...

此 知の... 舟人の... 舟人の...









本  
由志也

志願と英名經理のむりー大社より神領並角目  
事行下し洋事

永保二年大友氏後那程の法り迷ひ橋詰而の  
非社と多焼出せしれーは也社より大とせし  
焼にりー也社紀多物とくく唐紙とあり也と後  
富原と多國也名佐殿とありとて非殿御殿等  
造言の志何りー也名神あり死せし一也と事  
何し也中早川陸景流前のおとこも何後少社と  
法也ー也田一何所寄附せしれと猶も中納言表秋の  
何しと多し也日とも没収せしれーは也社の修補も  
絶くりりりり也物ーと和二年也と光之君廢た

具ーとくも何と多寄附せしれーは也社と又新あり  
とくも何の多寄附せしれと九月九日  
年次の大祭ありれは非無芋屋のり多し御座あり  
十三路乃流瑞るりりお撰給年事と多あり一也  
末社も二年何下ありとくも何と多也社あり  
ありとくも何とくも何の多寄附せしれと多し  
ありひやとれけと何の何も何の何と多し  
也社の多也凡十八村あり芋やと多也一也  
多し也と多し也と多し也と多し也と多し也  
多し也と多し也と多し也と多し也と多し也  
多し也と多し也と多し也と多し也と多し也









ちり車ハ園の端の如く一説に記さる

吾妻村

此村ハ山海に臨み、海利あり、川の松原とゆを記  
し、そと北風あり、東南むむひく陽氣  
うくち地純脆し、五穀ゆさる色法路、遠く  
し、田舎に在り、比近ハ民俗とまゐるとあり  
むし、明無の比麻生遠江守家治主殿と文の比  
麻生河内守隆守比村の古の城あり、ゆり麻生元々  
後大友の臣仇生た近を史、近お治ひく世城  
年一六と家士宅の跡多し、故に村中産し

ち毎この節に、  
松原むしハ吾妻村の山ありむし、ハ吾妻村の跡  
今ハ別村とあり、松林の園あり

隆守院

恩如き山と号す、吾妻村より、  
元生隆守と号す、寺あり、  
墓、佐牌あり

園松原

吾妻村より、  
あり、

松系の内なりき地なり申す系ハ北切宮后藤紫に  
りしせきしは申道ふ山居り者しは物をもあひ  
とつ<sup>て</sup>傳ふ申す系よりく山風を踏く後ハ松林と  
申す所は地前の竹と移るといひ傳へたり

五神村

今ハ五神村といふ地あり古記ハ書あてみしりけり  
村中に屋敷跡あり乞の跡あり是古多人あり  
今倉の社の民ありていふ言たりしもの地内  
の境目  
毎元より申す一はありてく毎元一とて  
新甲一なる五神といふ一況北切宮后藤紫の社

まゝいづくまひ海をもあひ一海澄のわよとてり  
州一あひ一左よ村とてり一後世中の事なり  
五神村といふ

五神

五神の松系の中ありとてり一知なり申す北切宮后  
の夫も此とてり一申す一わよとてり一五神村あり

神浦

村元のを傳へり一北切宮后藤紫とてり一申す  
申す所は神浦といふ一神浦といふ一此れハ大藤小藤  
といふ所村中ありこれ大藤の跡とてり一

而よりや年の浦乃西のまま山と湯川とより家原那  
境と境也此山の谷よりむり湯泉あり此山  
ゆりゆり山とまま湯泉ありとありあむ  
きよ山と家原のありとみたり谷也湯川山  
道かき谷より原より又此山に昔八馬の牧あり山  
西のより牧と湯泉の社あり

る牧

知浦のよりちかき牧<sup>止</sup>ちかきめづりに湯川と  
いり河のはりちかきとちかきをあす俗説に  
此代のちかきとちかき

大歳神社

知浦より河り又け能熊子村と摩那原のり大歳社あり  
去別川

馬山村と糠塩村とのり湯川と知切のり天  
井のり山のまき江のりせとちかきとちかき  
さやまのり左右村と山城知村海光津村のり湯川

道場系

中津津村より河り湯川とちかきありとちかき

塩生村

塩生と和名ありむらさきをちかきとちかきの一居也値のり





大岡水

小安村の西界平岨山甲のみ北南側海にありたのり  
あり小安村の境内也 其後 秀吉より所管にあり  
あり一はしあきく人きく地を掃らむ水と  
はくく 別名をたみく井と申す 後人は是に因く  
大岡水と云ふと水高潔し 近村の湯家は是に因く  
今もあき  
平始に彦後村の境内ありて流ありしと云ふ  
余の後賢しとて一國の事と云

長流

お尾川別 松本村の枝村也と云ふ流は 松尾の境内と云ふ  
別松の境内也と云ふ流の川と云ふ上は 役より下は 役と  
永む丸別松と云ふくも流より 出る上は 役永む丸別  
松お尾川は 谷一谷の中より 出る丸別川と云ふ長流の  
辺の谷中むしと云く 漸く入るなりと云ふ 此の川は  
物れと云ふ流も 流名近き里中今も一と云く  
船入也 山ありしと云く 遠く舟の余り舟の  
まれあり 遠かき川にわたる 舟の  
船流ありし

遠かき堀川







新倉道前ありて又中宮村ハ山の中宮村  
河ノ故より名付あり新倉殿ニ由リ

香月村

むし一畑ニ傷山ノ原田を割小葎<sup>葎</sup>皆香月  
原を合道代ニありて香月村ニ一里を割原田は  
新倉殿ノ合敷物大古村皆香月此杉森の神社  
と云々 産屋大庭殿と云々古宅の地圍と田々  
新水又山原神社と云々宅址<sup>址</sup>院ありた  
下河り今ハ産屋とあり也是も香月式の一様あり也

香月氏の事ハ如の故の事ニ詳ニ  
香月七郎ノ事 名姓ニ云々

吳あり佳境也

松原大明神

香月村一河り日中或云々と宗堂を社也日中或云々  
筑紫此然社を社人と云々ハはけり也  
日中或云々ハ松の社ニ津陸市を定然云々お節花の  
梢ニ濃事。月前川の水と云々ハ氣多と見  
多ハハ花のうら電月流さ知この路ハ左ハ香月村  
号ハハハ昂ニ新十日中或云々の社と云々ハ  
ハ後元亨二年正月十日此宮ノ知の新麻小社宛  
ハハハハ此切ハ左ハ新天宮江由天皇と云々社ハ







凶年、圃より河に流るる水、河に多し、其年、  
いふ事と知らず、菰子、取、由、所、所、村、の、里、人、多、く、  
焼く、給、物、と、す、年、を、終、く、多、く、其、の、後、中、所、  
あり、此、の、事、を、終、く、多、く、其、の、後、中、所、  
の、も、又、菰子、取、り、由、所、村、も、給、穀、圃、あり、

菰子取社

一、菰子の取、り、由、所、村、中、より、山、下、河、中、南、部、の、流、り、  
あり、と、り、由、所、村、の、外、に、菰子、取、り、由、所、村、也、里、俗、に、  
此、の、使、は、菰子、取、り、由、所、村、の、号、有、り、と、り、由、所、村、  
り、も、菰子、取、り、由、所、村、の、号、有、り、と、り、由、所、村、

菰子取社、  
少き、梅、あり、是、の、一、の、事、と、り、由、所、村、の、社、也、  
は、  
か、  
是、又、菰子、取、り、由、所、村、の、社、也、  
は、  
り、や、の、一、の、事、と、り、由、所、村、の、社、也、

中河内

菰子取の社村也、菰子、一、里、余、深、山、幽、谷、の、中、河、内、  
境、也、里、俗、に、の、後、中、所、村、の、号、有、り、と、り、由、所、村、

其の前の村にありて... 田代

中の河内より中上ノ深山の内より河内北河をきて  
田代也是も古郷村の村色あり西家十傳戸河重  
一谷の中山川と臨み東に老翁の田代村あり西ハ  
篠節の田代村あり村の名ハあり一先は國うまれり  
左篠節田代を翁田代と云ふ川と云く西境をたそへ  
河内中家能歌その川の上原各此内より田代と云村あり  
山川と臨み東ハ古和米西ハ河内中家能歌大和田代  
河内田代と云らぬ一又高古家能歌東ハ河内

紀前新橋の西ハ河内と曰谷田名ありておつりぬ

川野村

此村の園の中ハ方々年々年中にちの藤畑一た  
元の地ありて方々一川の端河内里人ハ金丹王云  
流され人の居たりて新ありと云

龍指社

此村あり今ハ語く龍旗大明神と稱す長政公の  
家臣井之國防陳系より居たりはしと云ふ細路河内  
居たりて宅中ハ龍指の墓と云く河内ハ龍指河の



時の人と事とを忘れず政時に基き此靈心宗法  
をすくむべき祠とくむべきを以て同防無地  
作しは陳系の人元生の社人と不和ありて  
元生の社人信く事ありすは海より遠き  
元生の社人の安地ありては彼社人信く能指の  
社と建くべき社とせんといふは同防是とあり  
り此を別社と建くは地社と成是とありて  
能指の社人安地無地のは沖能指と指たり社と稱く  
能指大明神と号せり實ハ能指の墓と築れり  
而ありりらる能指一世より多事也

弘長寺

澤田宗

能登山玉臺院と号す元生村にあり山頂に明堂あり  
一人を宗系出人永録六年竊て昔ハ寺ありて  
井と同防之房州迎と成りて成る書の墓あり  
又同防寺婦ら墓并者納りて法を陸河里

能登

元生 澤田 彩田

元禄十一年 能登村の町を以て遊子宿を以て町とす  
此の町を以て町とす甲とす凡ね十町同十年  
元生村陳系村の町を以て遊子宿を以て町とす  
後とす西之院の町を東西とす甲とす此の町を以て

いふ。其西の境は、東の方より、字名西の方より、  
 字名、その西の方より、田舎、凡そ、所、所、  
 内と、新田と、海と、人、人、海、東、元、生、村、の、境、の  
 谷と、新、境、と、水と、新、境、と

筑前国津風土地巻第十

遠方郡下目録

黒塚

妙見社  
山寺

獅子持次  
鳴水山土元

園田  
三郎山

流石大吸神  
土塚

馬塚

左邊

大蔵社  
左

徳園社  
鏡屋園

四倉山

枝光村

尾倉村

上橋

多々橋

石巻屋山

仲名村

嶋郷

自是以下至末等字、字、属、字

山麻村

浪越屋  
洞山

茶臼山

扇新山

狩尾大吸神

山麻坪馬浦

烏帽子石

昭田洞山 逆見津

白鳥

山崎村 山崎氏社

少石村

若和 河解

大湊川

順原多村

高木村 石岸

二子堂

畠田村 注

海士住 湖海

大鳥居村

推事所 庄ノ江

皇居閣

筑前玉續風土記

遠望 郡下

黒崎

本

此地を本別の名水の環に河内と豊前少石の地を以て  
高木村を以て國府と云く此處を以て先師母の墓  
ありて地を以て無事と云くまた黒崎の古城は畠田村  
河内 此城を以て敵入金の後豊前境の事御宗の先  
條を以て此城を以て國府と云く此城を以て此城を以て  
事を以て司りて此城を以て此城を以て此城を以て  
と此城を以て此城を以て此城を以て此城を以て

馬場と云はれ城の石と馬場と名附しと云や 國語也云  
と城と云はれ人皆多く世に一宅と云高きと集り  
庄田町此町と云はれ是と云はれ此の所の号と  
城の号と云はれ馬場と云はれ馬場と云はれ馬場  
をりて申す所の西と云はれ市と云はれ東と云はれ市と云はれ延武  
後希世新程の程と云はれ馬場と云はれ馬場と云はれ  
馬場の所と云はれ馬場と云はれ馬場と云はれ馬場  
元和元年の年合所と云はれ一と云はれ一と云はれ一と云はれ一  
と云はれ又昔も大坂御東の渡海船を希少倉の  
ありて西も他もと云はれ人此に勢に集りて人

皆少倉と云はれ馬場と云はれ馬場と云はれ馬場  
も又海海船ありと云はれ馬場と云はれ馬場  
と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所

妙見社

馬場の城と云はれ馬場と云はれ馬場と云はれ馬場  
妙見の社あり

熊の控現

熊の村と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所  
熊と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所  
熊と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所と云はれ馬場の所

焼きく津路不陸橋を橋と稱す田圃とありく  
むろくを名としくきつり川を流の清水なり湯藏の  
男女舟清水を汲と云ハ名譽し或は湯水とありと云  
井と氏家人坂中河系名と云く清水と云下におち  
よ水と云くく川の流と一り水と云く里人の  
用水と云く東社の所と云くあり標と云くありふ  
つこくありと云くあり神原の地熊子川畔元生の  
田を云くありありく田の名とありくを名と云く  
熊まろ山手村の下の海辺一ノ貝元と云く西家  
八九軒斗ありありあり熊子村の境也(と云く)

首熊子標現の名名ありと云く今ハあり  
と云く昔甚威の技と云くありと云く建風  
ありと云くありと云くあり村氏熊子此祠也  
とたのく麻の草と云く後とあり一先里人の海  
氷と云く身と云く洗ハ牛馬も脚水と云くありと云く

田圃

熊子村のうち山手と云くあり古事記に神武天皇  
を名前のうけと云く熊子村の名は言ふと云く一幸ありと云く  
と記と云く田圃の氷つり一事ありと云く日記に云く例れ  
名の氷つり一事ありと云く一事ありと云くあり

一説に岩田は高麗の郡岩田村ありとす  
されども國の邊にあらざれば岩田と云ふこと  
昔ハ社<sup>社</sup>有るなり今も昔社社の地と云ふに  
西河より四方より堀有り社の址の地を  
一面より廣く志<sup>志</sup>を大友宗麟は道の社社と  
號し海邊とあり也社<sup>社</sup>はもと社<sup>社</sup>と云ふ  
社社社社の社あり又山平社海邊に  
社社安の社と云ふ社あり又之の海邊  
皇居傍と云ふ社あり是社社の社あり  
今<sup>山</sup>社ありと云ふ社ありと云ふ社あり

社社大明神

社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也  
社社村あり是ハ麻生氏の先祖之社也

徳園の社

昔ハ岩田北村との名と云ふ田舎山の下に









そす石をうり河を流る所より又芽れ生れ  
二の少婦を中流環の所より少婦を流る所より

尾倉村の傳

此社を村を西往東の道の側を山にあまりの比  
流る所より少婦を流る所より少婦を流る所より  
の所より少婦を流る所より少婦を流る所より  
少婦の所より少婦の所より少婦の所より  
形斗に少婦を流る所より少婦の所より  
少婦を流る所より少婦の所より少婦の所より  
少婦を流る所より少婦の所より少婦の所より

あり今もその遺例あり村中の女は前出布を  
織ると又其流環を河より少婦の所より  
少婦を流る所より少婦の所より少婦の所より

若松村の向ふ。村を南より少婦の所より  
今ハ戸畑と少婦を流る所より少婦の所より  
筑紫凡と記す月より少婦の所より少婦の所より

尾倉村の傳

尾倉村乃東小海流より少婦の所より  
若松村の向ふと山の所より少婦の所より  
海を隔る南より少婦の所より少婦の所より







海に池方しく申さるる。下池田しく海に接す  
これとち海に川を流す。西に大なり。海に接すの  
海と岩村しく西に接す。セバ。一里事。岩村は  
あり。この海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。

に有海より。海に接す。海に接す。海に接す。  
一里。岩村。一里。岩村。一里。岩村。一里。岩村。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。

浪懸岸

山麻村の境内に。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。  
海に接す。海に接す。海に接す。海に接す。



北の小山のよき一りく位置の地也

洞山

山麓の北板倉浦の西可斗うみと海とくく少流あり  
堂山と云ふ一り物も北社あり又地蔵堂ありと云  
海道の船とく如彦と名ふる一り船又子きり物切は  
こし一り橋二方斗ありと云一り遊むは付、おありと云  
海物一りも一り又物ありと云一り物ありと云一り洞山  
洞のうらも一り橋二方斗ありと云一り南や一り  
通をりも一り二流も一り板倉村一り橋二方斗あり  
に洞山と云あり地蔵及須田村と物も一り藍染の

と云ふも一り凡洞山と云ふのうらも一り大穴ありと

うらも一り一りたをり一り一り洞山と云ふ

板倉系石橋

是も板倉の西堂山の西の流の内一り有板倉一り属あり  
板倉は海中一り長く出流る岩ありと云一り平外あり  
板倉と云ふは一り一り一り一り一り一り一り一り一り  
橋二方斗ありと云一り一り一り一り一り一り一り一り一り  
さし一り一り一り一り一り一り一り一り一り一り一り  
と云一り一り一り一り一り一り一り一り一り一り一り  
と云一り一り一り一り一り一り一り一り一り一り一り



漢、  
洞山板安石橋とのよ造化の巧り〜く是等の後地  
あり〜ゆり此を五の石橋地おもしろく河くかす  
其を石橋の石橋二〜ゆり〜るす

山麻岬

山麻村の山一里に岩屋村あり〜おもしろく出傷と岩屋  
流とら〜山麻の岬をむ〜山麻  
〜あり日本地紀 仲夏天皇八年春正月〜筑紫  
〜あり〜山麻の岬を〜岩屋  
〜あり〜山麻の岬を〜岩屋

過山麻之崎詠之

蓮禪

雲海沈々望自由、聞名蓮蓬寫不遙求潮穿沙岸松根露。  
庵宇山畦稻穗秋、助く望山何処、有田畝稻及老何堪羈旅路。  
當時遙見往來亦未全衣錦歸郷士舊友莫嘲貧矣薄然出。  
詩無題

馬浦 烏帽子岩

岩や浦の東の海也〜ゆり岩の平々ゆる〜  
〜長るる方海を内幸ある斗八横十二方〜ゆり  
長平ある斗八横と方ゆり又は道の海也〜烏帽子  
の形り似〜立岩あり是又岩後也

昭田洞山

沼田浦の西へ懸橋トモとてありて西へ洞はあり  
洞は石をさす處の因へ事ある事若くはさしこころを  
かきし山麻の洞より山あれも高きありあり  
あまの事しちかき岩窟あり元此に是れ一石あり  
れくへ入事ある事有る事の是れちかく言ふ事  
有り長ころり橋なる事有る事あり是又岩窟也  
カミ  
運見津

岩窟と沼田との間にありて洞のなる事此は岩窟を西  
にこの洞より洞也凡沼田も古坂に上り海沿へ洞の  
あり海ありあり海中の地界界言ふ事ありて是れ

ありていそら及國路のさしり海沿の白石ありて是  
洞のなる事也くは海と上りて洞のなる事也  
川すくち也日本紀記より運見の事とて地誌シホトコロとて  
ありて此の事しや一説に此の武久村の隈と澳  
運見の海といふ事とて里橋の洞海ありて此の洞  
ちかき洞のなる事也あり運見津の事也

白濁

沼田沼浦の海の事しりて言ふ事ありて言ふ事ありて  
白濁といふ事ありて此の洞ありて言ふ事ありて  
唯此の事しりて唯此の洞ありて言ふ事ありて十八町あり

唯書ハ葉多ク唯書ハ牛有リ日本紀 仲哀紀

葉多ク割ク沖融とす何リ葉多クハ白鳥のト

何リんハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

云轉一ハ白鳥と云々也白と葉とを割也

トレハありハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

ハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

ハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

毛利元就葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

唯書ハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

何リハ葉多クハ葉多クハ葉多クハ葉多ク

お新し地是るも〜〜〜地元のもの、年海山也  
物れとも彼主人の考〜〜〜魂をさる〜〜〜也  
七の塚と築邦邦と〜〜〜毎年た〜〜〜山色ヲ多致

小嶽村 白山権現社 十三塚

小嶽村の山より白山権現の社あり後其冊を菊理  
姫と多致不也 麻を多致を捕を其の白山権現  
劫後 ち〜〜〜言ハ〜〜〜也 一也 伊社の  
多致を 立たる ち〜〜〜と号一 村の名を  
世村ハ内小嶽即小嶽と〜〜南小支村あり内小嶽  
を世村と〜〜即小嶽と世村とす小嶽のち〜〜内

小嶽の小即小嶽の南より〜〜又小嶽の南より〜〜  
然也権現の社あり昔ハ世社ト社信ハ信〜〜と〜〜  
その宅址村中ハ多れり 池邊 池邊 西傍 東傍 池邊  
赤小嶽と信浦の旨 白山の社の西より十三塚並  
つ〜〜あり

小嶽村

此小嶽名と〜〜今ハ小嶽と信浦ハ小嶽近の地也  
石色ハ多致を〜〜と〜〜也

若松

町河中多致多〜〜是南東の隈ト〜〜河〜〜と〜〜







とて和修多利とハ此所の梵語なり修多利村の水

小田より十と修つて分るる小石と修多利の河

此後之宮集談之有馬全書及ノを長後ノくくノ宮集談のた先ハありあり  
多つたふき形は水とをとも色さる、た之ハのは宮集談初とてはあり  
海舟と石舟とを後とを柳ノ浦ノあり修く

石舟

若松と二修の石山の南の側方々々境目二里なり此里

石舟

後ノ末村のよりよりより右有石舟と名は修に  
一してハ修のより修小田村乃との修山  
次、小山嶽山あり

二修

二修村有り此所のむく一修二河り右末村の名を  
修とてハ修のより修小田村乃との修山  
次、小山嶽山あり

修山

白田村のよりより修山

海士位

行並海士位の前ノ舟に元禄元年新田多々  
た里行並の前ノ村新田多々の前ノ海士位  
村小田より近新田のた先新田より修山







事あれども少少ハ止りて岨の海の入口の岨海産  
の河（河に）ありまらりて止りて岨海産  
と先其事あれども其の河と後代迄ハ少々ハす  
其後其を名物冠在代の名物名もやこりり  
ありとま 神切皇居の河とまらりて岨海と  
河を借くはれむむし其を例とさひ出く岨海と  
まらりて岨海と

大高居村

むし麻生氏小岳山のより一宇部氏の中山権現  
と御信一御村一太高居とまらりて岨海産の  
名物

権本園

大高居村の西大岡水の東小川より太松をくりり  
権本よりとまらりて岨海の中（大岡水が太松の  
のまらりて岨海）

店の江

大高居村の東一河里わを流るる小川也岨の  
海一河也一河里の河と芋屋の河との河境  
より世よりとまらりて岨海産又ありて  
是即海の河境運え其の河も也又芋屋東に  
あり其の河と河境の河も流るる方れり  
橋河也岨の海もいりて今ハ河一色也此迄

揚州の船は、  
海を、  
一、

有毛野

海士佐村と店のは、  
船を止られ、  
有毛野

有毛村の海辺、  
辛卯、  
花

